

トラフグ



トラフグの成長

年齢	オス		メス	
	全長(cm)	体重(kg)	全長(cm)	体重(kg)
1	32	0.6	32	0.7
2	40	1.3	40	1.4
3	44	1.8	46	2.0
4	48	2.2	49	2.5
5	50	2.6	52	3.0
6	53	3.0	54	3.4
7	54	3.3	56	3.8

令和3年度トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源評価

生態

- 分布・移動：北海道全沿岸から九州南岸の日本海・東シナ海、太平洋沿岸、瀬戸内海、東シナ海北部に広範囲に分布します。
- 成熟・産卵：オスは満2歳、メスは満3歳で成熟します。本種の産卵場は全国に散在しており、日本海側では秋田県以南、太平洋側では東京湾以南に確認されています。産卵期は海域により異なりますが、3～5月に主に産卵しています。
- 食性：成魚は魚類やエビ・カニ類を捕食します。

漁獲の動向

震災前（平成12年～平成23年）の漁獲量は0.7～1.8トン、2百～9百万円程度の水揚げがありました（漁協によってはその他の魚類として整理していたため、過小評価の可能性があります）。

震災以降、操業自粛と国による出荷制限のため水揚げはありませんでしたが、平成28年から試験操業が開始されました。漁獲量は0.2～36.1トン、漁獲金額は0.5～124百万円（H28～29年は相対取引のため、漁獲金額データなし）で推移しています。令和元年以降漁獲量、漁獲金額ともに急増し、令和4年には36.1トン、124百万円と過去最高になりました。また、震災後では、はえ縄による漁獲割合が最も高くなりました。

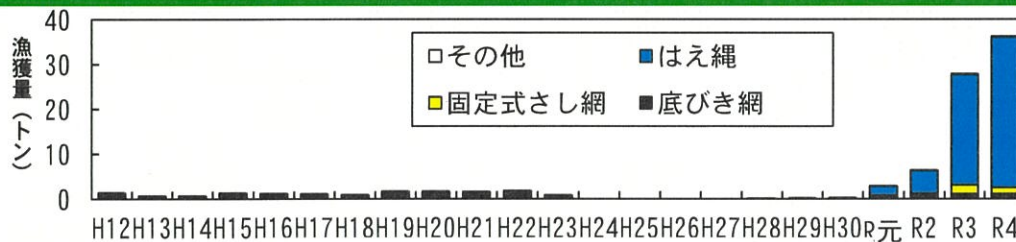


図1 トラフグの漁業種類別漁獲量の推移

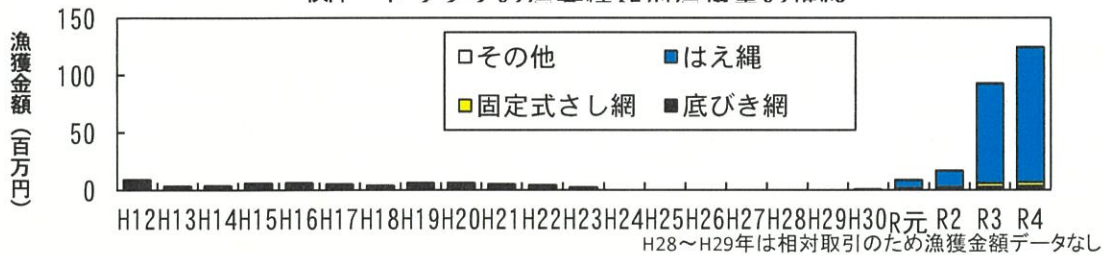


図2 トラフグの漁業種類別漁獲金額の推移

資源の状態

- はえ縄漁獲物の全長測定結果から、漁獲の主体は全長40cm以上（2歳魚以上）と考えられました。
 - 本県で漁獲されるトラフグの由来が不明のため、資源状況は分かりませんが、漁獲量の変動から増加傾向と考えられました。
- 資源の水準：不明 資源の動向：増加

現在実施されている管理策

相馬双葉漁業協同組合のはえ縄漁業者組織の内規として、全長35cm未満のトラフグを水揚げ禁止としています。

今後考えられる管理策

漁獲量が多く平均単価が低い時期を禁漁とすることで、平均単価が上昇し、資源への影響が低減できるものと考えられます。